

もの言う牧師のエッセー 第23話 「オイコス大学銃乱射事件」

キリストが苦難を受けた「受難週」と呼ばれるイースターウィークが始まったばかりの4月2日の朝、米国カリフォルニア州オークランド市にある小さな私立大学に43歳の男が侵入し、「全員殺す」などと言い放ち持っていた45口径キャリバーを約30発乱射、7人が死亡、3人が負傷するという痛ましい事件が起こった。

私はこのニュースの第一報を聞きながらこの事件が“牧師を養成する”いわゆる「神学校」で起きたことがすぐ理解出来た。なぜなら“オイコス”とは新約聖書によく出てくるギリシャ語で「家」という意味だからだ。

ここで言う家とは単なる住居としてのそれだけでなく「家族=教会」を指す。そう、この惨劇は「教会内」で起こったと言っても過言ではない。事実このオイコス大学を創立したキム・ジョンイン総長は韓国長老派の牧師でもある。そして私には彼がどうしてこの大学を「オイコス・家=教会」と名付けたか痛いほど分る。なぜなら私も自宅アパートにて細々と「家の教会=ハウス・チャーチ」を運営しているからだ。

しかし実際には教会が人類史上初めて発足して以来約2000年間、教会の周辺は犯罪やスキャンダルが絶えない。この問題について聖書はハッキリ指摘する。

「目ざめて身を正し、罪を犯さないようにしなさい。あなたがたのうちには、神について無知な人々がいる。」 1コリント人への手紙 15章 34節：口語訳

がそれだ。敬虔な人々がいる反面、何と教会内に神を信じない者が大勢いるのだ。現にキリストご自身が“身内”であるユダヤ人に殺されたのを初め多くの弟子達が教会を巡って迫害された。しかし、キリストはそれら悪の勢力に勝利し復活したのだった。教会に対する闘争は今日も続くが、復活の力で苦難の中を前進して行く。

2012-4-24

